

### 全作物共通

暖かい空気に覆われやすいため、平均気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並の見込みです。（※気象庁1ヶ月予報より）

- ①ハウスは高温障害に注意して管理します。換気に努め、適切なかん水と追肥、葉面散布を行い、草勢維持と収量及び品質の安定に努めましょう。
- ②遮光資材を利用する場合は、曇天時の被覆は避け、過度な遮光とならないように注意しましょう。
- ③高温期は収穫後の鮮度や内部品質が低下しやすいため、朝夕の涼しい時間帯に収穫し、速やかに倉庫や予冷庫に搬入しましょう。
- ④各種病害虫（軟腐病、べと病、うどんこ病、炭疽病、つる枯病、斑点細菌病、アザミウマ類、コナガ、アブラムシ類、ハダニ類）の多発時期を迎えるため、観察や予察情報に基づき、適期防除に努めましょう。
- ⑤熱中症予防や疲労回復のため、定期的に休息を取り、水分だけでなく塩分補給も行いましょう。

※農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

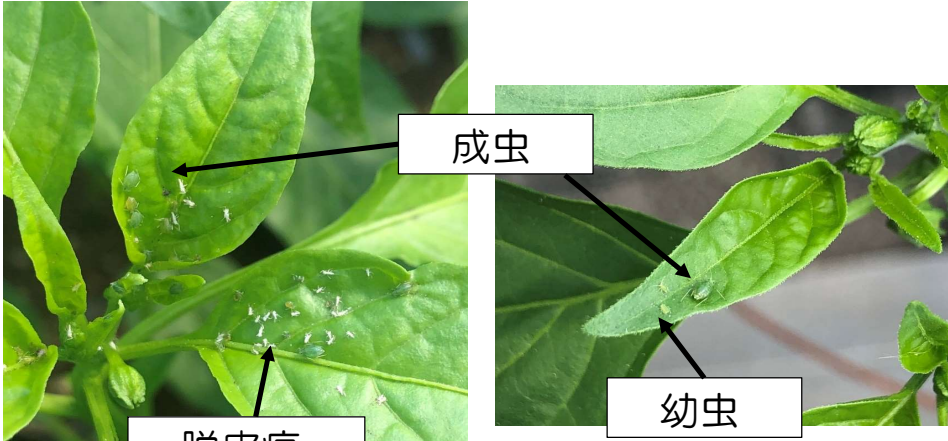
- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。  
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。  
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。  
(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)  
※掲載されている農薬情報は、令和5年7月5日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

## ■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□■□■ 【野菜の衛生管理編】 －食中毒の発生を未然に防ぐために－

### 食中毒を起こす微生物を「付けない」「増やさない」ために

- ・作業者：野菜に触る前やトイレの後など、必ず石けんで手を洗う。  
下痢、おう吐などの症状がある場合は、野菜に直接触れる作業をしない。
- ・農機具や収穫容器：収穫物等に直接触れる場合は、飲用に適する水等で洗うよう努め、洗った後には、必要に応じて消毒する。
- ・栽培に使う水：収穫一週間以内の生で食べられる野菜（収穫部位）に対しては、安全性を確認した水、飲用に適した水等を使うように努める。
- ・収穫後の野菜を洗う水：飲用に適した水等を使用する（直接可食部に水がかからないものを除く）。
- ・調整出荷施設：小動物や土ホコリが入り込まないようにするとともに、作業後に施設内を整理整頓し、清掃する。
- ・低温保管施設：結露に気を付け、設定温度が保たれているか確認する。また、飲食物などの作業に関係のないものを入れない。

作物名	ピーマン・ししとう・なんばん		
病虫害 生理障害名			
アブラムシ類			
発生状況			
少発生			
発生時期			
6月上旬～			
モモアカアブラムシ (なんばん)			

発生の状況・要因

- ・モモアカアブラムシの発生が見られている。
- ・モモアカアブラムシの体色は赤、緑、黄で、生長点付近や上位の新葉などに多く見られる。

対 策



- ・多発すると防除が困難になるので、生長点付近をよく観察し、初発を見逃さないよう努める。
- ・生長点付近の未展開の葉や葉裏に寄生している場合は、薬剤がかかりづらいので、散布は丁寧に行う。

＜防除の一例＞カブリダニ類の導入時にも使用可能

ピーマン			
●ウララDF	2,000～4,000倍	収穫前日まで	2回以内
●トランスフォームフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	2回以内

ししとう・なんばん（とうがらし類）			
●スタークル顆粒水溶剤	3,000倍	収穫前日まで	2回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	トマト類	
病害虫 生理障害名	 	
発生状況	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                 がくから感染した 発病果実             </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                 葉の病斑とかび             </div> </div>	
発生時期	6月中旬～	

### 発生の状況・要因

- 曇天が続き湿潤な天候が続く場合は、予防的な防除が必要である。
- 昼夜の温度差で、茎葉や果実が結露すると発生しやすくなる。

### 対策

- 結露が発生した際は速やかに換気して除湿する。
- 枯れた葉や脇芽の除去は、なるべく晴天時に行う。
- 葉数が確保されたら、下葉を除去して通気性を良くする。

#### ＜防除の一例＞

予防散布で効果の期待できる剤



- ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで 4回以内  
 直径3cm以下のトマトと、ミニトマトは2回以内

発生が見られた際に使用する剤

- ファンタジスタ顆粒水和剤  
 2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。



<b>作物名</b>	<b>トマト類</b>	
<b>病害虫 生理障害名</b>		
葉かび病 すすかび病		
<b>発生状況</b>		
少発生		
<b>発生時期</b>	葉裏のかび 上：葉かび病 下：すすかび病	
7月上旬～		
	葉表の病斑（葉かび病）	

### 発生の状況・要因

- 両病害ともよく似た病斑を形成し、葉裏にかびが見られる。
- 葉かび病は20～25℃、すすかび病は26～28℃で発生しやすく、共に多湿条件で発生が多くなる。

### 対 策

- ハウスの換気に努め、下葉の摘葉により通気性を確保する。
- 葉かび病は草勢が低下すると発生が増加するのでかん水不足や追肥遅れにならないように気をつける。
- 発生蔓延後の防除は困難なので、予防効果の高いダコニール1000、ベルコートフロアブル、微生物農薬等による予防的防除に努める。
- 発生が増加する場合は、被害葉の除去と下記の治療効果のある薬剤で防除を行う。


<発生確認後の防除の一例>（トマト・中玉・ミニトマト共通）

- トリフミン水和剤
 

葉かび病：3,000～5,000倍	収穫前日まで	5回以内
すすかび病：3,000倍	収穫前日まで	5回以内
- ファンタジスタ顆粒水和剤
 

2,000～3,000倍	収穫前日まで	3回以内
--------------	--------	------

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	きゅうり	
病虫害 生理障害名		
つる枯病		
発生状況	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">地際部の症状(R5年)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">罹病部に発生した 黒い粒(柄子殻)</div> </div>	
微発生		
発生時期	7月上旬～	

### 発生の状況・要因

- ・地際に発生することが多く、表面が白くなり亀裂を生じる。
- ・ヤニを出すこともあり、黒い小粒（柄子殻）が多く見られる。激しく発病した株は萎れて、地上部が枯死する。
- ・生育後半の果実成り疲れて草勢が弱った時期に、多湿のハウスで発生が多くなる。

### 対策

- ・換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。
- ・薬剤散布や塗布を行う。
- ・施肥、温度管理、かん水など適正な栽培管理により草勢を維持する。

＜防除の一例＞

- トップジンMペースト 原液塗布 発病初期 5回以内
- スミレックス水和剤 1,000倍 収穫前日まで 6回以内
- パレード20フロアブル 2,000～4,000倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

きゅうり

病虫害  
 生理障害名

べと病

発生状況

微発生

発生時期

7月上旬～



葉裏に生じた

### 発生の状況・要因

- 始めは、葉脈に囲まれた角形で黄色の病斑を形成し、病勢が進むと褐変する。
- 褐斑病と似ているが、べと病は病斑が黄色味を帯び、葉裏にかびを生じることから判別できる。
- 曇雨天が続いたり、ハウス内が多湿となると発生しやすい。また、肥料切れでも発生が助長される。

### 対策

- 適正な管理で草勢を保つとともに積極的な換気を行い、ハウス内湿度を高めないようにする。
- 発病初期に防除を開始する。

<防除の一例>

- ライメイフロアブル 2,000～4,000倍 収穫前日まで 4回以内
- プロポーズ顆粒水和剤 1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。